

「ふるさとの魅力を語る講座」を開催しました

平成23年3月16日・23日と2回にわたり、講座を開催しました。



1回目は講師に元小学校校長 宮武利雄さんをお迎えし、「四国八十八箇所歩き遍路体験から学んだもの」をテーマに、公認先達でもある宮武さんの遍路体験談をお話いただきました。

四国遍路の行程は、全1400Km。車で8日、歩いて45日～50日かかります。

宮武さんは、9回目までは車で回ったそうですが、10回目に歩き遍路を体験し、大変苦しい思いをしたけれど、

大自然の素晴らしさやありがたみが分かり、苦しい思いをした分、結願の時の喜びも大きかったそうです。その際には、遍路宿を利用したそうですが、次の歩き遍路では、野宿や善根宿で泊まりながら回ったそうです。

野宿では寒さから、睡眠が十分にとれなくて体はきつかったが、大自然の神秘や素晴らしさを感じることができ、善根宿では若い人たちとの交流が図れたそうです。

歩くことで①体が鍛えられる。②忍耐力がつく。③人とのつながりが強くなる。④弘法大師の教えに気付くことができたそうです。苦しいときに、あいさつをされるだけで元気づけられたことが何度もあったそうです。

2回目は講師に円座地区老人クラブ 連合会会長 久利言さんをお迎えし、「円座地域の史跡、文化財、伝説について」をテーマにお話いただきました。

円座地区（円座町、西山崎町）の史跡や文化財についてお話しがありました。

平清盛公の時代、大和田泊（神戸港の基礎となった港）埋立て工事で、人柱として捕らえられた旅人30人の身代わりとして、自ら志願して人柱となった松王小児（円座に墓あり）の話や、円座の地名の由来となった「円座（菅で作った敷物）」、香翠座のデコ芝居など興味深く聞くことが出来ました。

